Confa agricultural classroom
コンファ農業教室

農たび・北海道

農村ツーリズム

北海道の農山漁村で旅する
新たなグリーン・ツーリズムをご紹介します。

『農たび・北海道』とは？

近年、訪日外国人旅行者の増加に伴い、道内にも北海道の持つ雄大な自然や気候風土、美味しい食などを求めて海外から多くの旅行客が訪れるようになり、2017年度の来道外国人旅行客数※1は過去最高を更新しました。

こうした外国人旅行者を含む観光客の多くが、札幌圏や函館、旭川・富良野などの観光名所に集中する一方で、都市住民のライフスタイルの多様化や食の安全に対する意識の高まりなどから、農山漁村を訪れたいといった旅行者ニーズが増加しています。

また、道内の農村では、農家民宿、いわゆるファームインで子どもたちを受け入れ、農業体験を通して農家とふれあう取り組みが普及してきましたが、近年の農家戸数の減少や高齢化などから受入農家戸数が年々減少してきている状況です。

こうした中、道では農村の豊かな自然や景観、安全な食、田舎暮らし体験を求めて道内を訪れる旅行客を農業や観光業など多様な主体が地域ぐるみで受け入れる新たなグリーン・ツーリズムとして、「農村ツーリズム」を推進しています。

その土地ならではの風景や郷土食を堪能し、根付いた文化や歴史を学び、農村での暮らしを体験しながら住民と交流する「農村ツーリズム」を楽しんでいただくため、親しみのあるロゴマークと『農たび・北海道』の愛称でこの取り組みをPRしています。

※1 北海道経済部観光局の調査によると、2017年度の道内への外国人観光入込客数は、約279万人となっています。（前年度比49万人増）

親しみのあるロゴマークでPR

農たび北海道
森たび北海道　浜たび北海道

※『農たび・北海道』を基本パターンに、取り組む地域の状況に応じて、「森たび」、「浜たび」を利用することができます。

地域ぐるみの受け入れで何が変わるの？

最近では、従前の温泉やグルメなど、観光名所を巡るレジャー観光はシェアを落とし、まち歩きや歴史・文化を楽しむ異日常観光が主流となってきました。

地域内の多様な産業・住民が連携することにより、組み合わせや新たな発想による様々な体験やサービスの提供が可能となり、人やまちの雰囲気そのものが訪れる観光客にとって、他にはない魅力に繋がります。

▲歴史・文化体験（小平町）

新たなビジネス創出を目指す農泊の取り組み

国では、2017年に策定した観光立国推進基本計画に「滞在型農山漁村の確立・形成」を位置づけ、農山漁村での生活体験や地域の人との交流を促進する「農泊」を推進し、東京オリンピック開催年の2020年までに農泊地域を全国で500地域創出することを目指しており、道内ではこれまでに29の地域が採択され、それぞれの特徴を活かした取り組みを進めています。

▲もぎ取り体験（十勝）

▲自然体験・フットパス

▲アウトドア体験（アクティビティ）

農村の活性化に向けた今後の展開

農村ツーリズムや農泊を進めることは簡単ではありませんが、取り組む中で、今まで気が付かなかった地元の魅力や大切さを知るきっかけとなる場合もあります。

また、都会の若者や外国人観光客との交流を通じ、外部の目線での「気付き」や受け入れる側のモチベーションが高まり、取り組みの活発化やより多くの住民参加につながるなど、農村の活性化に寄与するものと考えられます。

それぞれの地域がそれぞれの魅力を自ら発信・提供する『農たび・北海道』をよろしくお願いします。

読者から
2018年秋号へのお便り
スマート農業は、これからAIやロボットなどの導入で大きく変わっていくのですね。現場と技術で北海道農業を頑張ってください。（札幌市 70代男性）

編集者から
労働力不足の解消や高品質な農業生産を図っていくためには、スマート農業技術はとても重要です。技術開発のスピードも目覚ましく、新たな技術が本道農業にどのような発展をもたらすのか楽しみですね。

confamail